

藤野智宏さん
3年(小原区)

僕たち俵山中学校では、修学旅行にかえ、毎年「校外学習」を実施しています。今年1年は長門大津、2年は山口市、3年は京都に行き活動をしました。従来は修学旅行と違う点は、自分達で興味・関心のある課題を設け、日程・相手先との交渉などを行い、全ての活動を創造していく点です。活動の中で特に重視していることは「出会い・ふれあい」を大切にすることです。活動後のポスターセッション(体験したことを多くの

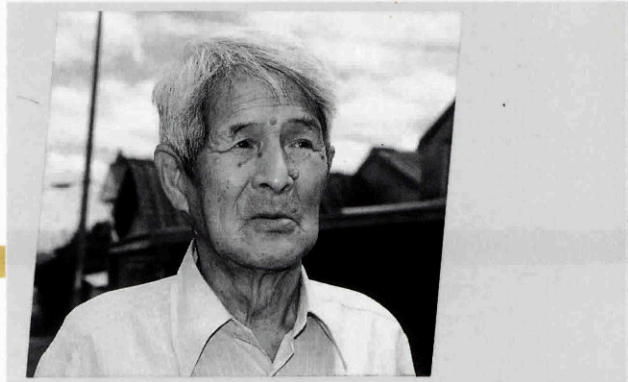


人々に発表する会)では各学年とも、それぞれで行った活動の中で得ることのできた体験や意見を、ユニークな方法でたくさんの人々に発表しました。この「校外学習」では、生徒一人ひとりが人とのふれあいの大切さや、楽しさを感じとることができたと思います。この活動が今後も続いていくことを願いたいと思います。

長門市のホームページが開設されることになれば、私が寄稿することもなかったであろうなと考えると、インターネットというものの効果とその多様性にお気づきになるのではないのでしょうか。インターネットは情報



高校2年の夏、軟式野球全国大会(2列目の白いベルト)



「親が竹細工をしていたので、自然にその仕事を継ぐようになりましたが、戦時中は長崎で造船の仕事をしていました」9年間働いた後、召集がかかり浜田へ行くことになった。そして入隊のため長崎を離れた翌日に、原爆が落とされた。結果として、召集がかかったために命が救われた形となった。

終戦後、家にもどりやはり竹細工を始めた。他の仕事に就こうとは思わなかった。「苗めご、てみ、手かご、あぶり魚の串などをつくっていました。なかでも、てみが一番得意でした。当時は生活の必需品でしたので注文も多かったですよ」と上野さん。同じ物をいくつもつくるには、指先の力と技術が必要だそうで、「この仕事をやってきてよかったと思っています」

ふるさとながと 29

こんにちは



藤井隆明さん
(横浜市保土ヶ谷区)

故郷というもの

略歴

昭和39年湊中央区で生まれる。茨城大学工学部情報工学科卒業後、松下通信工業(株)入社。大規模LAN開発やPHS公衆用基地局の開発を担当、現在は主にソフトウェアの開発を行っている。役職は技師。

郷里を離れて十数年が経ち、

これまでの半分を外から見つめてきました。ここ数年は、益・暮れに帰るだけの生活で、「ふるさと」にふれることができるのも年に数日がいいところでした。

そんなある日、何気なくWWW(注)のリンクをたどっていると、我が故郷長門市のホームページを見つけました。遠く離れている者にとって、このような形であっても「ふるさと」の情報にふれることができるのは、大変うれしいことです。あらためて郷里の昔を学び、今を知ることができました。

を発信するだけのものではなく、情報を集めるすべをもった双方の伝達手段です。

「ふるさと」の街づくりに遠く離れた場所から参加する、そんな私の思いがいつの日か実現することを楽しみにしています。(注) WWW World Wide Web 蜘蛛の巣(Webe)の様なインターネットによるつながり